

施策の目標値と令和7年度実績との比較及び評価・総括

数値目標に対する評価

A	予定どおり(又はそれ以上に)、十分に達成されている。
B	概ね達成されている。
C	あまり達成されていない。

	項目	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R 2 実績	R 3 実績	R 4 実績	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績			目標 (令和7年度末)	目標値設定の考え方	
											実績	評価				今後の方向性(考え方)
①	1人当たり医療費伸率 ※1 (対前年伸率)	0% (0.9%)	2.4% (2.4%)	3.3% (4.1%)	3.2% (2.9%)	2.3% (△0.2%)	2.8% (4.8%)	2.9% (3.2%)	2.9% (2.9%)	2.8% (2.3%)	2.8% (2.3%)	C	順調でない	特定健診・特定保健指導の実施をはじめ、生活習慣病の発症・重症化予防、適正服薬指導等に取り組み、医療費の適正化を推進する。	2.1% 以下に抑制	健全化取組前の伸び3.1% (H24～28平均)の7割に抑制
②	特定健康診査受診率	30.8%	26.6%	33.7%	34.6%	33.9%	35.6%	34.5%	34.1%	33.0%	31.3 ※2	C	順調でない	受診者へのインセンティブの効果検証を行うとともに、特定健診受診率向上に努める。 薬局と連携した受診勧奨やSMSの活用など、従来の受診勧奨方法とは違う切り口で受診勧奨を実施する。	60%以上	国の目標 (第四期特定健康診査等実施計画)
③	特定保健指導実施率	37.8%	38.4%	41.6%	32.9%	33.2%	26.6%	27.1%	25.5%	30.3%	19.1% ※2	C	順調でない	未実施者に対する再勧奨通知の発送や電子教材媒体の活用、訪問指導の強化等保健指導実施率向上に努める。	60%以上	国の目標 (第四期特定健康診査等実施計画)
④	ジェネリック医薬品の利用状況 (数量シェア)	74.7%	78.9%	82.2%	84.5%	86.1%	85.8%	87.7%	88.4%	91.1%	90.8%	A	順調である	差額通知の送付により、後発医薬品の利用促進に努める。	80%以上 ↓ 90%以上 (第2期見直し)	R元年度から毎年 1ポイント以上の伸び
⑤	人工透析患者割合	0.52%	0.52%	0.54%	0.57%	0.58%	0.59%	0.58%	0.58%	0.59%	0.56%	B	概ね順調である	関係団体等と連携を取りつつ、糖尿病や高血圧、慢性腎臓病等生活習慣病発症予防・重症化予防に努める。	0.6% 以下に抑制	H25～27の患者数平均伸率を 2分の1に抑制
⑥	収納率（現年度分）	89.60%	90.24%	90.81%	91.37%	92.58%	93.26%	93.09%	93.07%	92.72%	92.57%	B	概ね順調である	DAISによる預貯金照会業務の迅速化・効率化を図るなど、収納率向上に努める。	91%以上 ↓ 94%以上 (第2期見直し)	中核市上位3割 に当たる収納率（R元）以上
⑦	収納率（滞納繰越分）	19.47%	20.46%	21.12%	22.33%	23.32%	21.92%	22.48%	21.92%	21.27%	21.07%	C	順調でない	DAISによる預貯金照会業務の迅速化・効率化を図るなど、収納率向上に努める。	23%以上 ↓ 28%以上 (第2期見直し)	中核市上位3割 に当たる収納率（R元）以上
⑧	口座振替割合（普通徴収世帯）	45.21%	44.84%	45.22%	44.66%	44.91%	45.05%	44.25%	44.02%	44.19%	44.06%	B	概ね順調である	Web等口座振替受付サービスの周知により、口座振替利用世帯数の増加に努める。	42%以上 ↓ 50%以上 (第2期見直し)	中核市上位3割 に当たる割合（R元）以上

※1) H28を基準として、その年度までの毎年の平均伸び率を表した数値。R7年度の場合だと、H28年度からR7年度まで毎年平均2.8%の伸びだったことを表している。

※2) 調整中(R8年11月確定予定)

★鹿児島市国民健康保険財政健全化計画の総括

鹿児島市国民健康保険財政健全化計画(平成30年度～令和7年度)は、本市国保財政の健全化に向けて、医療費適正化対策や収納率向上対策等に関する取組を推進してきました。

施策の目標値については、1人当たり医療費伸率や特定健康診査受診率、特定保健指導実施率、収納率(滞納繰越分)は、順調に推移しなかったが、ジェネリック医薬品の利用状況は目標を達成したほか、収納率(現年度分)などについても、概ね順調に推移してきたところであり、全体としては、目標達成に向けて、各種取組を着実に推進することができたと考えられる。

また、令和7年度には、国保財政健全化に向けた取組を強化している国や県の方針を踏まえ、平成21年度以来16年ぶりに税率改定を行った結果、令和7年度決算において、累積赤字を対前年度比で15億6千万円削減し、財政状況に一定の改善が図られたところである。

今後も、本市国保財政の健全化に向けて、赤字削減・解消計画(令和10年度までの赤字解消が目標)に基づき、医療費適正化対策や収納率向上対策を推進するほか、保険料水準統一に向けた動きなども踏まえ、税率改定を検討していく必要がある。

令和８年度の目標値について

引き続き、医療費適正化対策と収納率向上対策を進めるため、目標値は継続とする。（一部、見直しあり）
 なお、今後は、毎年、必要に応じて、目標値の見直しを行う。

H30年度～R7年度

項目		目標値 R7年度末	R7実績	
			実績値	評価
①	1人当たり医療費伸率 （対前年伸率）	2.1% 以下に 抑制	2.8%	C 順調でない
②	特定健康診査受診率	60%以上	31.3%	C 順調でない
③	特定保健指導実施率	60%以上	19.1%	C 順調でない
④	ジェネリック医薬品の利用状況 （数量シェア）	90%以上	90.8%	A 順調である
⑤	人工透析患者割合	0.6% 以下に 抑制	0.56%	B 概ね順調である
⑥	収納率 （現年度分）	94%以上	92.57%	B 概ね順調である
⑦	収納率 （滞納繰越分）	28%以上	21.07%	C 順調でない
⑧	口座振替割合 （普通徴収世帯）	50%以上	44.06%	B 概ね順調である

R8年度

項目		目標値 R8年度末	備考
①	1人当たり医療費 （R7：540,135円）	546,584円	見直し 本市総合計画の目標値（580,000円（R13年度））の表記との整合性を図るため、 伸び率から金額での表記に変更
②	特定健康診査受診率	60%以上	継続（国の目標値）
③	特定保健指導実施率	60%以上	継続（国の目標値）
④	ジェネリック医薬品の利用 状況（数量シェア）	90%以上	継続
⑤	人工透析患者割合	0.6% 以下に 抑制	継続
⑥	収納率 （現年度分）	94%以上	継続
⑦	収納率 （滞納繰越分）	24%以上	見直し H30年度以降の収納率の最高値（23.34% （R2年度））以上
⑧	口座振替割合 （普通徴収世帯）	50%以上	継続